



平成 21 年 9 月 15 日

各 位

上場会社名 加 賀 電 子 株 式 会 社
コード番号 8 1 5 4 東 証 第 一 部
本社所在地 東京都千代田区外神田三丁目12番8号
代表者の 代表取締役社長 塚本外茂久
役職氏名
問合せ先 専務取締役 下山和一郎
管理本部長
TEL 03-4455-3111

子会社の業績予想の修正に関するお知らせ

加賀電子株式会社(代表取締役社長:塚本外茂久、本社:東京都千代田区、資本金:12,133百万円)子会社でありますエー・ディ・エム株式会社は、平成21年7月30日「平成22年3月期第1四半期決算短信(非連結)」にて公表いたしました平成22年3月期(平成21年4月1日~平成22年3月31日)の業績予想につき、別紙のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

なお、本件による当社連結業績に与える影響等につきましては、本日、同時に公表しております、「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

以上

各位

上場会社名 エー・ディ・エム株式会社
 代表者 代表取締役社長 志摩 良一
 (コード番号 3335)
 問合せ先責任者 執行役員管理本部長 牛見 史郎
 (TEL 06-6244-2701)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年7月30日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,011	20	14	8	2.51
今回発表予想(B)	4,568	△83	△97	△99	△31.07
増減額(B-A)	△443	△103	△111	△107	
増減率(%)	△8.8	—	—	—	

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,362	155	143	133	41.74
今回発表予想(B)	10,768	△26	△46	△49	△15.38
増減額(B-A)	△1,594	△181	△189	△182	
増減率(%)	△12.9	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	2,809	△232	△141	△158	△49.33

修正の理由

(1)第2四半期累計期間

世界的な景気後退の影響による企業収益の悪化により、設備投資、個人消費は低迷し、雇用情勢も急激に悪化するなど、非常に厳しい状況が続いております。当社が属する電気機器業界においても、一部のコンシューマ分野において在庫調整が進むなどの明るい兆しが見え始めるものの、設備投資の抑制が継続する厳しい事業環境となっております。

当社におきましては、コミュニケーション分野において、海外の携帯電話機向けチップセットの売上が伸び悩んだものの、カメラ付き携帯電話機向けの半導体の需要が好調でありました。また、コンシューマ分野においては、世界的な不況の影響により北米向けオーディオ用半導体の需要が減少しておりますが、デジタルスチルカメラの需要が一部で回復傾向にあることから、デジタルスチルカメラ向け半導体の売上高が予想を上回っており、これらの結果、当該2分野においてはほぼ予想通りの推移となっております。

しかしながら、インダストリー分野においては、昨秋以来の世界的な不況の影響による企業収益の悪化を背景として設備投資などの産業機器向け半導体の需要の回復が、大幅にずれ込んでおり売上高が予想を下回りました。

利益面では、経費削減を継続的に進めておりますが、相対的に利益率の高い多品種少量販売を中心とするインダストリー分野向けの売上高が予想を下回った結果、上記の通りの営業損失、経常損失及び当四半期純損失が見込まれることから、前回予想を修正するものであります。

(2)通期

通期の業績予想につきましては、昨秋以降の不況の影響による設備投資関連需要の回復のずれ込みにより引き続き厳しい状況が続くものと予想しております。

当社におきましては、コンシューマ分野においては、デジタルスチルカメラ向け半導体の需要が順調に伸びるものと予想いたしておりますが、コミュニケーション分野において、第2四半期累計期間に引き続き、海外携帯電話機向けのチップセットの需要が減少しており売上高が当初予想を下回るものと予想しております。またインダストリー分野においても、設備投資関連需要の回復が遅れているために、相対的に利益率の高い多品種少量販売を中心とする産業機器向け半導体の需要は低調に推移するものと予想しており、売上高、利益についても落ち込むものと予想しております。

引き続き利益を重視した営業活動、全社を挙げて更なる経費削減に努めてまいります。これらの要因や第2四半期累計期間の厳しい状況を踏まえ、計画等を総合的に見直し、業績予想の修正を行なうものであります。

(注1)平成21年3月期は、決算期変更により5ヶ月決算となっております。

(注2)上記の予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値と異なる場合があります。

以上